

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21051

建築物名称	障害福祉サービス事業所ナーシングピア子母口新築工事
建築主	社会福祉法人 円融会 理事長 前川 清寿
建築物の所在地	川崎市高津区子母口字根田町373、374
設計者氏名、建築士事務所名	草野 陽一 株式会社NC設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,010.90㎡
用途	児童福祉施設等(相談支援、生活介護、ショートステイ)、 寄宿舍(障害者グループホーム)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階、地下1階
工事完了年月	令和5年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	障害福祉サービス事業所ナーシングピア子母口新築工事	階数	地上4F
建設地	川崎市高津区子母口字根田町373、374	構造	RC造
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院・集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 竣工	評価の実施日	2022年2月1日
敷地面積	1,096㎡	作成者	草野 陽一
建築面積	623㎡	確認日	2022年2月1日
延床面積	2,011㎡	確認者	草野 陽一

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画		
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市景観計画に則した計画	2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	室外機、給湯器は半分以上をGL+10m以上に設置		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱材を強化		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	—	0.7/1.1	3.0
3.2 3.2.1 昼光制御	カーテンにより制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	室外機、給湯器は半分以上をGL+10m以上に設置	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	非住宅BPI _m =0.71、住宅等級4相当		
2 自然エネルギーの利用	—	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化	非住宅BEI _m =0.83、住宅BEI=0.88		
4 効率的運用	—		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型便器を採用		
2 非再生性資源の使用量削減	—	2.8/4.7	3.0
3 3.2 フロン・ハロンの回避	—		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標0.5以上	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	配管の主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型便器を採用		
2 非再生性資源の使用量削減	—	2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車場を設置	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	室外機、給湯器は半分以上をGL+10m以上に設置	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	非住宅BPI _m =0.71、住宅等級4相当		
2 自然エネルギーの利用	—	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化	非住宅BEI _m =0.83、住宅BEI=0.88		
4 効率的運用	—		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標0.5以上	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	配管の主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	—	0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—		
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	非住宅BPI _m =0.71、住宅等級4相当		
2 自然エネルギーの利用	—	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化	非住宅BEI _m =0.83、住宅BEI=0.88		
4 効率的運用	—		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性			病室は10㎡/床以上確保	3.0	-	5.0	0.85	
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	0.15	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観				1.0	0.30	2.0	0.40	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計			内装に維持管理のしやすい建材を採用	4.5	0.30	-	-	
2	維持管理用機能の確保			掃除用流しやコンセントの設置など、清掃環境を整備している	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数		R		3.4	0.30	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	床:ビニル床シート、壁:ビニルクロス、天井:ビニルクロス	2.0	0.20	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	厨房排気ダクトにステンレスダクトを採用	4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	給水(VLP)B、給湯(VLP)C、排水(VP)B、Eは不使用	4.0	0.10	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		5.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり				2.6	0.30	2.7	1.00	2.6
2	空間の形状・自由さ				1.8	0.26	2.4	0.50	
3.2 荷重のゆとり									
1	階高のゆとり				1.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性				3.0	0.26	3.0	0.50	
2	給排水管の更新性				3.0	0.49	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.20	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.20	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.10	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.10	-	-	
3.6 バックアップスペースの確保									
3.0									
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出				G	W				
2 まちなみ・景観への配慮				G					
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				

LR 建築物の環境負荷低減性										3.1			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	非住宅BPIm=0.71、住宅等級4相当	4.8	0.20	-	-	-	-	-	4.8	
2	自然エネルギー利用	W	H		2.8	0.10	-	-	-	-	-	2.8	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BE][BEIm] = -	3.0	0.50	-	-	-	-	-	3.0	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価				3.0	0.85	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
	集合住宅の評価				3.0	0.15	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	2.9
1	水資源保護	W	R		3.4	0.20	-	-	-	-	-	3.4	
1.1	節水			自動水栓、節水型便器を設置	4.0	0.40	-	-	-	-	-		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.73	-	-	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.27	-	-	-	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減				2.8	0.60	-	-	-	-	-	2.8	
2.1	材料使用量の削減	W	R		2.0	0.10	-	-	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	-	3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R	-	1.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.10	-	-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	-	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	-	-	-		
1	消火剤	W			-	-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	W			3.0	0.50	-	-	-	-	-		
3	冷媒	W			3.0	0.50	-	-	-	-	-		
LR3 数地外環境										0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	W		ライフサイクルCO2排出率87%	3.5	0.33	-	-	-	-	-	3.5	
2	地域環境への配慮				2.8	0.33	-	-	-	-	-	2.8	
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
3	交通負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		R		1.0	0.25	-	-	-	-	-		
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	-	-	-	3.2	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-	-		
1	騒音				3.0	1.00	-	-	-	-	-		
2	振動				-	-	-	-	-	-	-		
3	悪臭				-	-	-	-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-	-		
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-	-		
2	砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.3	光害の抑制				4.4	0.20	-	-	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリストの過半を満たし、広告物照明は行わない	5.0	0.70	-	-	-	-	-		
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-	-		